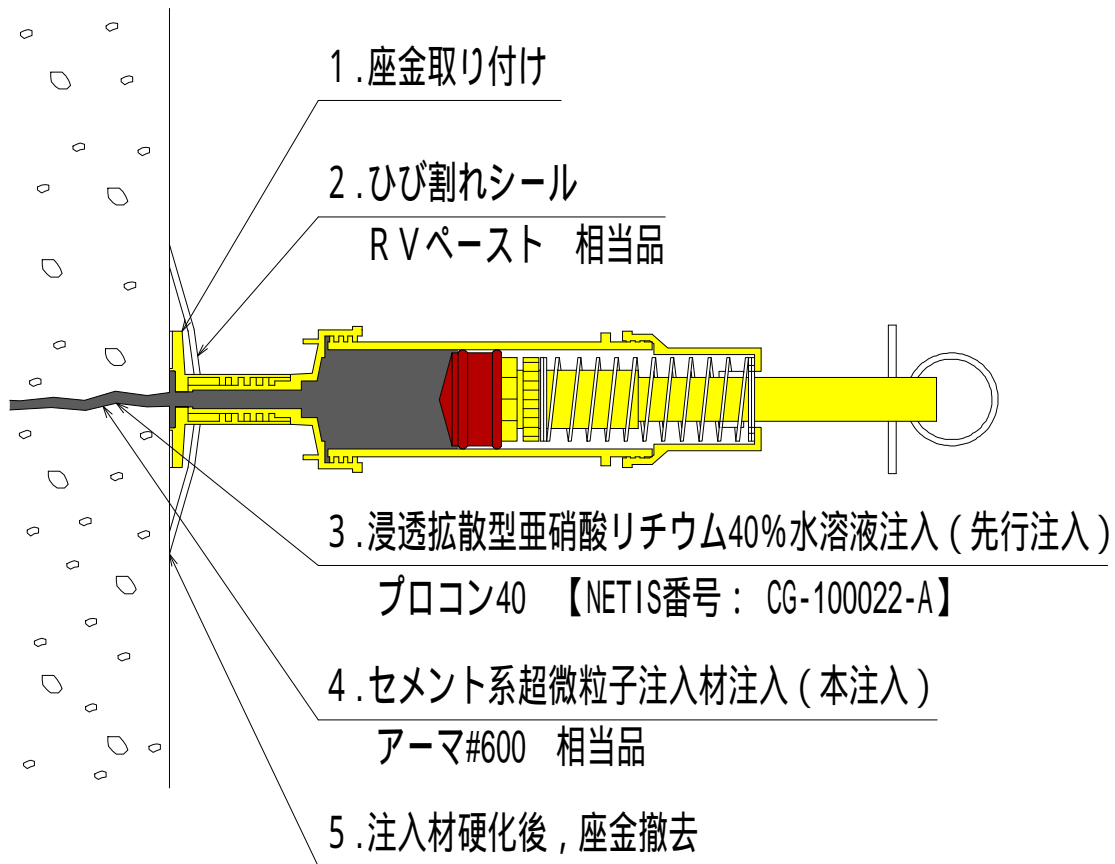


ひび割れ注入工

(リハビリシリンダー工法)

【NETIS番号：CG-110017-A】



座金取り付け

エポキシ樹脂接着剤等を用いて、ひび割れに沿って、プラスチック座金（注入口）を取り付ける。座金の間隔は250mm以下（4個以上/m）とする。座金の中心がひび割れ上に位置するように留意する。

ひび割れシール

座金から注入した材料がひび割れから漏れないように、ひび割れ面をシールする。ひび割れから枝分かれしている微細なひび割れやジャンカなども入念にシールする。

浸透拡散型亜硝酸リチウム 40%水溶液注入（先行注入）

シール材が十分硬化したのを確認後、浸透拡散型亜硝酸リチウム 40%水溶液をインジェクター（注入器具）を用いて注入する。ある座金から注入して、隣の座金から水溶液が流出するのを確認しながら、1つ1つ確実に注入する。

セメント系超微粒子注入材注入（本注入）

浸透拡散型亜硝酸リチウム 40%水溶液注入後、乾燥しないうちにセメント系超微粒子注入材を注入する。要領は先行注入と同様で、ある座金から注入して、隣の座金から注入材が流出するのを確認しながら、1つ1つ確実に注入する。

注入材硬化後、座金撤去

注入完了後、注入材が硬化するまでインジェクターを取り付けたまま養生を行う。注入材が硬化後、インジェクターを取り外し、ディスクサンダー等により座金を撤去する。